

## 研究キーワード

緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

## 加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科  
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL [https://researchmap.jp/sada\\_kato](https://researchmap.jp/sada_kato)

## Profile

■ 主な担当科目 グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保全管理

## ■ 研究者略歴

- 1996 (平成 8) 年 5月 米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業
- 2003 (平成15) 年 4月 米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了, MLA
- 2010 (平成22) 年 5月 米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了, Ph.D.
- 2011 (平成23) 年 9月 茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) 共同研究員, IPCCチャプターサイエンティスト
- 2014 (平成26) 年 3月 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) リサーチ・アソシエート
- 2015 (平成27) 年 3月 茨城大学国際戦略室国際コーディネーター
- 2016 (平成28) 年 4月 岡山大学グローバル人材育成院准教授
- 2021 (令和 3) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部准教授
- 2021 (令和 3) 年10月 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授
- 2023 (令和 5) 年10月 鳥取大学大学院連合農学研究科 指導教員資格者 (D合)

## Research

■ 取得学位 Ph.D. (Ecological Planning) (University of Massachusetts Amherst, USA)

■ 専門分野 緑地計画学, エコロジカル・プランニング, グリーンインフラ

## ■ 現在の研究テーマ

- ・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
- ・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
- ・鳥取県若桜町・八頭町の農山村地域の持続可能性に関する未来シナリオ分析研究

## ■ 受賞歴

- 2003年 (平成15) 年5月 Landscape Architecture Alumni Award (米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部)
- 2003年 (平成15) 年8月 最優秀賞 (大学院共同研究部門) (米国ランドスケープアーキテクト協会)
- 2006年 (平成18) 年4月 プロフェッショナル・エンハンスメントアワード (NASA-MSU)

## ■ 所属学会

国際景観生態学会 (IALE), 日本造園学会, 日本景観生態学会, 日本都市計画学会, 日本建築学会

## ■ 資格

英検 1級

## Data

## ■ 研究等活動

## 【著書】

- ・「Changes in the Use of Green Spaces by Citizens Before and During the First COVID-19 Pandemic: A Big Data Analysis Using Mobile-Tracking GPS Data in Kanazawa, Japan」(共著), 2022年, 『Green Infrastructure and Climate Change Adaptation』, Springer
- ・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年, 『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
- ・「決定版! グリーンインフラ」(共編著), 2017年, 日経BP社
- ・「ポスト震災社会のサステナビリティ学: 地域と大学の新たな協働をめざして」(共編著), 2014年, 国際文献社

## 【論文】

- ・「鳥取県東部におけるロードキル発生状況と生態的要因に関する考察」(共著), 2024年, 『第23回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集』
- ・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」(共著), 2022年, 『International Journal of Environmental Research and Public Health』 19 (14): 8728, DOI: 10.3390/ijerph19148728
- ・「人流ビッグデータで見たCOVID-19流行後のグリーンインフラや観光地利用の変化」(共著), 2022年, 『ランドスケープ研究』 85 (5), 585-588
- ・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」(共著), 2021年, 『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341
- ・「ニューヨーク市BIG-Uプロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」(共著), 2021年, 『ランドスケープ研究』 84 (5), 587-590
- ・「バリ島の伝統的緑地「テラジャカン」についての研究—公共性と「かかわりの正当性」—」(共著), 2021年, 『住総研 研究論文集・実践研究報告集』 第47号, 131-141
- ・「フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究」(共著), 2020年, 『ランドスケープ研究』 83 (5), 673-678
- ・「地域開発における伝統的緑地 (テラジャカン) の役割: バリ島プリプラン観光村の事例」(共著), 2020年, 『専修人間科学論集, 社会学篇』 第10号, 35-42
- ・「Functional Analysis of Telajakan Plants and Space in Northern Denpasar, Bali, Indonesia」(共著), 2019年, 『Open Journal of Ecology』 9 (2), 15-24
- ・「ポートランド市のグリーンインフラ適用策事例から学ぶ日本での適用策整備に向けた課題」(共著), 2015年, 『ランドスケープ研究』 78 (5), 777-782

## 【報告書】

- ・「マカオ内港地区における洪水被害軽減デザインの提案と対策についての考察」(共著), 2023年, 『都市計画報告集』 21(4), 368-372
- ・「空き地のグリーンインフラ再利用を軸に敷地と都市スケールの取り組みを連動させるには—アメリカ・デトロイト市の事例から—」(共著), 2019年, 『都市計画報告集』 18, 112-116

## ■ 社会貢献活動

- ・鳥取県景観審議会 委員 (2022年1月~)
- ・鳥取県湯梨浜町景観審議会 委員 (2023年9月~)
- ・岡山県岡山西部総合公園 (仮称) 活用準備会 副会長 (2019年3月~2021年3月)
- ・「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022 (2022年12月17日)
- ・「自然のチカラで暮らしも地球も, もっと豊かに」夢ナビ (2023年6月25日)